

## 雍也第六

子曰、知之者、不如好之者。

好之者、不如樂之者。

子曰わく、これを知るものは、これを好む者に如かず。

これを好む者は、これを楽しむ者に如かず

(6-138)

<子曰わく、これを知る者は、これを好む者に如かず>

Q : 「子曰わく、これを知る者は、これを好む者に如かず」とは何ですか。

A : (1) 「孔子が言った。ある物事について、それを単に知っている者は、それを好む者には及ばない」の意。

(2) 「知るということだけでは、まだ、これを愛好することに及ばない」の意。

(3) 「知」とは、事の存在を知る。対象を知る。

(4) 「之」は何を指してもよい。道と限る必要はないが、道とすれば、わかりやすい。

(5) 「不如」とは、及ばない。

(6) 「好」とは、すきになる。知ったものへの特別な感情を寄せること。

<これを好む者は、之乐しむ者に如かず>

Q : 「これを好む者は、之乐しむ者に如かず」とは何ですか。

A : (1) 「しかし、それを好む者だって、その物事について楽しむ者には及ばないのだ」の意。

(2) 「愛好するということは、之乐しむということには及ばない」の意。

(3) 「楽」とは、自他融合して一体となった悦楽の状態。

(4) 人生に生きるということを知る。生きていることを好む。生きることを楽しむ。人生を楽しむ人は幸せ。富貴にならなくても、人生を楽しむ人物になりたいものかの意か。